

【編集後記】

2011年3月11日14時46分三陸沖を震源とする大地震が発生した。内閣府などの経済的損失試算では25兆円を超えるとされている。大震災だけの壊滅であるなら、その復興需要に期待していくこともできるのかもしれないが、さらに、福島原発による核汚染という、「未曾有の天災」に名を借りた明らかな人災による大災禍が加わり、その対応において日本に政治的信頼醸成装置が機能不全であることから、「民族の死滅」という主題を再び取り上げようような状況がじわじわと浸潤している。そこで、「嘗つて東方に国ありき/人は嘆き喜びてかつ歌ひ……」と、日本の記憶を果たして後世に伝えようのは誰なのかと考える。……日本の知識人はとても衰退していて、とてもそれすら望むべくもない難しい局面に私たちは立たされているのかもしれない。中国の知識人たちにそれを托せるのか？これもまた一つの課題である。お届けする ICCS 電子ジャーナル第3号発行にあたって、村田安、加治宏基、平野孝治、虞萍の各氏にさまざまなご協力を頂いた。記して感謝したい。